# 令和5年度　東久留米市立　　東中学校　　学校評価報告書

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 学校教育目標 | 師弟同行を重んじ、強い責任感と思いやりを持って、正しい判断と実践のできる、創造力豊かで、心身ともに健全な生徒の育成を目指し、<br>〇よく考え自主的に行動できる生徒の育成<br>〇責任を果たし努力できる生徒の育成<br>〇健康で心豊かな生徒の育成 | 教育ビジョン | 【目指す学校像】 | 〇生徒が安心して過ごせ、明るく意欲的に学びに向かい、自ら成長できる学校<br>〇教師が生徒の成長のために一丸となり、生徒にとって魅力ある生活の場をつくる学校 |
| | | | 【目指す児童・生徒像】 | 〇これからの社会で活躍できる資質・能力を身に付けた生徒<br>・様々な課題を解決できる思考力・判断力を身に付けた生徒　・自己有用感や自尊感情を持ち、将来に向けて自己成長しつづける生徒　・多様な考え方を受け入れ、自己の意思を明確に持ち、協働できる生徒 |
| | | | 【目指す教師像】 | 〇学校経営方針を理解し、教師集団が一丸となり目標実現に向けて取り組む教師<br>・生徒の成長のために尽くす教師　・常に向上心を持って取り組む教師　・自分以外の人の気持ちを理解し、協力して取り組もうとする教師 |
| 前年度までの学校経営上の成果と課題 | 成果：〇生徒が落ち着いた学校生活を基盤に、特別活動の行事を中心に意欲的に取組み、自己有用感や自尊感情を高めることができている。また、いじめ等問題行動に対して、教職員が組織的に対応したり、外部機関との連携を図ったりしながら迅速に対応し、解決に繋げることができている。<br>課題：〇生徒の学力について、思考力・判断力の向上や生徒間の能力差において課題がある。また、教員の授業改善やICT機器の活用、コミュニケーション能力の育成指導、家庭学習の取組の定着等が課題である。<br>〇教員のライフ・ワーク・バランスの改善について、超過勤務時間が月45時間を超える教員数が多く課題である。 | | | |

| 東久留米市第2次教育振興基本計画 | | | | 中期経営目標 | 短期経営目標 | 評価指標・評価基準 | | 自己評価 | | 学校関係者評価 | | 次年度の方策 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| No. | 三つの柱 | 基本施策 | 今年度学校で重点を置く「具体的施策」 | （令和7年度までの3年間） | （1年間） | 取組指標 | 成果指標 | 取組 | 成果 | 評価 | コメント | |
| 1 | Ⅰ　健全育成 | 規範意識や他人への思いやりなど豊かな心を育む教育の推進 | 規範意識と豊かな人間関係を育む教育 | ①生活指導の評価・A評価60%達成<br>②特別の教科「道徳」の評価・A評価60%達成<br>③特別活動の評価・A評価60%達成 | ①生活指導の評価・A評価50%達成<br>②特別の教科「道徳」の評価・A評価50%達成<br>③特別活動の評価・A評価50%達成 | ①規範意識を高め、規律ある生活を行う指導の充実<br>②特別の教科「道徳」の授業改善や評価の工夫<br>③生徒が主体的に取り組めるよう運動会・文化祭・合唱コンクール等行事の工夫 | ①規範意識の醸成や豊かな心の育成に対し、満足・概ね満足が<br>A：85%以上<br>B：60%以上<br>C：40%以上<br>D：30%未満 | 4 | 4 | 3 | ・挨拶の良くできる生徒達です。<br>・運動会等の学校行事で生徒が主体的に取り組んでいる。元気な挨拶がなされている。<br>・授業に遅れる・騒がしい授業と静かな授業の差がある。落ち着いて授業を受けられるようになっている時期ではないのかと思う。<br>・「取組指標③」のような取組が効果を生んでいると思う。<br>・自然環境により一層関心を深めてほしい。（農作物の生育観察） | ・引き続き、挨拶や規範意識の醸成に全教職員が同一歩調で取り組めるようにする。<br>・道徳の授業を副担任も行い、授業の工夫改善を行えるようにする。<br>・授業規律の確立について個々の教員に任せず、組織で指導にあたる。<br>・不要物の持ち込み等、家庭との連携を図りながら指導にあたる。<br>・SNSの使用について情報モラル教育の一層の充実を図っていく。 |
| 2 | Ⅰ　健全育成 | 個性を認め合う教育の推進 | 自己肯定感・自己有用感の醸成 | ①自己肯定感の調査数値60%達成<br>②自己有用感の調査数値60%達成 | ①自己肯定感の調査数値50%達成<br>②自己有用感の調査数値50%達成 | ①特別の教科「道徳」の「自分のよさ」授業の指導工夫<br>②特別活動での「自他の個性の理解」への取組<br>③授業での「自己評価」「他者評価」の取組 | 個性尊重教育の達成度が満足・概ね満足が<br>A：85%以上<br>B：60%以上<br>C：40%以上<br>D：30%未満 | 4 | 3 | 4 | ・道徳の授業や学活の時間で自他の個性を尊重する場面を設けている。<br>・アンケートにもあったが9組との交流を増やす機会が、個性を認め合う機会に繋がると思う。<br>・地域社会との交流（ボランティア活動に積極的に参加・意見交換を望む）（美術・書道・家庭科に個性を活かされた教育を望む） | ・道徳の授業をはじめとして、教育活動全般において他を尊重する指導を教員が率先して行うようにする。<br>・生徒が主体的に行事や生徒会活動に取り組めるよう指導の工夫を図る。<br>・地域と連携するなど生徒会主催による行事や取組みのいっそうの活性化を図る。<br>・全ての生徒が活躍できる場を学校教育の中で意図的につくっていく。 |
| 3 | Ⅰ　健全育成 | いじめ問題への対応 | 教育相談体制の充実 | ①いじめの発生率3%及び解消率100%<br>②いじめの早期発見及び早期解決<br>③不登校生徒の出現率3%以内、解消率50% | ①いじめの発生率5%及び解消率100%<br>②いじめの早期発見及び早期解決<br>③不登校生徒の出現率5%以内、解消率30% | ①面談・アンケートの実施及び分析・対応<br>②いじめ防止対策委員会（週1）による組織的対応<br>③SCや外部機関を活用した不登校対策 | いじめ・不登校問題への対応に対し、満足・概ね満足が<br>A：85%以上<br>B：60%以上<br>C：40%以上<br>D：30%未満 | 4 | 3 | 3 | ・面談等教育相談体制を更に充実して、今以上に信頼関係を築いていっていただきたい。<br>・先生方が親身になって取り組んでくれています。<br>・不登校生徒の出現率が若干高い。校内研修（hyper-QU)の活用を図っている。<br>早期解決できているだろうか？目をまたぐ、週をまたいでいなかったでしょうか？<br>・同窓会で気が付くのはいじめた側が大人になっても後悔し続け、謝罪の機会を望んでいることが多くある。いじめる、いじめられる、双方に理由はある。寄り添うことができる担任の先生が互いに立て合い助け合う気持ちを丁寧に伝えてほしい。 | ・いじめに対する未然防止の取組を組織的に行う。<br>・些細な生徒の変化も見逃さない教員の高い観察力を高め、生徒と教員との信頼関係の更なる強化を図る。<br>・いじめ防止対策委員会の活性化と充実を図る。<br>・欠席がちな生徒と家庭との連携を強化し、不登校生徒の未然防止に努める。<br>・不登校生徒の居場所づくりや外部機関との連携を図るなど何らかの手立てを行う。<br>・面談期間や校内委員会のより一層充実と連携の強化を図る。 |
| 4 | Ⅱ　学力向上 | 確かな学力の育成 | 各種学力調査の活用 | ①全国学力・学習状況調査・標準偏差＋3以上<br>②市学習定着度調査・標準偏差＋3以上 | ①全国学力・学習状況調査・標準偏差＋1以上<br>②市学習定着度調査・標準偏差＋1以上 | ①全国学力・学習状況調査の課題の分析と改善<br>②市学習定着度調査の課題の分析と改善 | 学力調査の活用について満足・概ね満足が<br>A：85%以上<br>B：60%以上<br>C：40%以上<br>D：30%未満 | 3 | 3 | 3 | ・保護者に対し学習状況の発信を更に強く伝わるようにしていただきたい。<br>・全校学力調査や東京都・東久留米市の調査結果を活用して、学力の向上を図っている。<br>・本校生徒の課題、この課題が次にどう活かされていくのか？どのようなことをやっていくのか？<br>・学力調査の活用とは、よくわからない。 | ・市学力調査や全国学力・学習状況調査の結果分析を丁寧に行い、本校生徒の課題の改善を組織的に実施する。<br>・授業改善プランに沿った取組による効果を検証できるよう再調査を実施する。<br>・校内研修を通して、授業力の向上に全教員が取り組めるようにする。 |
| 5 | Ⅱ　学力向上 | 確かな学力の育成 | 基礎的・基本的な学力の定着と学ぶ意欲の向上 | ①国語・数学における校内標準値70点<br>②国語・社会・数学・理科・英語の校内標準値70点<br>③モジュール学習の満足度A評価 | ①国語・数学における校内標準値60点<br>②国語・社会・数学・理科・英語の校内標準値50点<br>③モジュール学習の満足度B評価 | ①授業改善推進プランに基づいた継続的な授業改善<br>②教科等横断的な視点での5教科の授業改善<br>③モジュール学習の内容を工夫し基礎的学力の向上を図る | 基礎的・基本的な学力の定着について、満足・概ね満足が<br>A：85%以上<br>B：60%以上<br>C：40%以上<br>D：30%未満 | 3 | 3 | 3 | ・自主学習教室や質問教室を開設して基礎的な学力の定着を図っている。<br>・平均点が毎回低く、その平均点より上にいることで満足してしまう子もいる。そうではないのではないか。<br>・問題ないと思いました。生徒の、授業や先生に対しての評価は概ね良好であり、学力調査も良好である。 | ・校内研修以外にも教員間で授業観察を行い、OJTを実施する。<br>・全教科で言語活動を通した授業の取組を実践し、主体的な学びの場を取り入れていく。<br>・モジュール学習の内容の充実を図っていく。<br>・家庭学習や補習教室の充実に向けて学校全体で取り組んでいく。 |
| 6 | Ⅱ　学力向上 | 確かな学力の育成 | ICT機器活用等による多様な指導方法の工夫 | ①配置された教科でデジタル教科書の活用と定着<br>②全教科タブレット端末を日常的に活用した授業の実施<br>③全教科オンライン授業可能な環境整備と指導力の定着 | ①数学科・英語科でデジタル教科書の活用と定着<br>②全教科タブレット端末を活用した授業を年複数回の実施<br>③複数教科でオンライン授業可能な環境整備と指導力の定着 | ①数学科・英語科で日常的にデジタル教科書の活用<br>②複数教科でタブレット端末を活用した授業を日常的に活用<br>③不登校生徒へ支援や特別活動等でのリモート配信やオンライン授業の活用 | ICT機器の活用について、満足・概ね満足が<br>A：85%以上<br>B：60%以上<br>C：40%以上<br>D：30%未満 | 3 | 3 | 3 | ・通信環境整備を早急にしていただきたい。（制限のある中では、より効果的な授業も難しいのではないでしょうか？）<br>・タブレット端末を活用して指導の工夫を行っている。不登校生徒へのリモート授業を実施している。<br>・ICT機器を使用している授業はやや少なく感じるが、しかしそれが学力と関係するとは言えないと思う。<br>・タブレットの弊害を理解し、学習に活用。 | ・デジタル教科書を授業や家庭学習で更に活用できるよう進めていく。<br>・校内研修を通して、タブレットを有効的に活用した授業実践を教員が学び、授業改善に取り組めるようにする。<br>・不登校生徒や欠席生徒へのリモート授業の配信を更に進めていく。<br>・授業以外でのタブレットの活用もさらに進めていく。<br>・情報モラル教育も含め、情報活用能力の向上に取り組む。 |
| 7 | Ⅲ　教育環境の整備 | 安全・安心な学校づくり | 地域や保護者と連携した防災教育 | ①防災教育の定着・A評価80%達成<br>②安全教育の定着・A評価80%達成<br>③保健教育の定着・A評価80%達成 | ①防災教育の定着・A評価60%達成<br>②安全教育の定着・A評価60%達成<br>③保健教育の定着・A評価60%達成 | ①防災・避難訓練」や「防災に関する講話」の実施<br>②セーフティ教室や不審者対応訓練、救命救急講習会の実施<br>③がん教育・薬物乱用防止教育の実施 | 防災・安全教育に満足・概ね満足が<br>A：85%以上<br>B：60%以上<br>C：40%以上<br>D：30%未満 | 4 | 4 | 4 | ・防災避難訓練やセーフティ教室を実施している。<br>・自治会などと連携して校庭通学路の清掃活動をしてほしい。<br>・在校中に普通救命講習を実施し、緊急時のために心肺蘇生法やAEDなどの知識・技能を身に付け、命の尊さを再認識してほしい。<br>・地域防災に積極的参加を望む。貴重な戦力である。 | ・より実戦に即した幅広い内容で避難訓練の実施を進めていく。<br>・セーフティ教室、がん教育、薬物乱用防止教室では引き続き様々な外部人材を招聘した授業を実施していく。<br>・地域と連携した防災訓練の実施に向けて働きかけていく。 |
| 8 | Ⅲ　教育環境の整備 | 児童・生徒の主体的な取組 | 学校図書館の活用と充実 | ①学校図書館を利用した生徒50%達成<br>②学校図書館の本の貸出冊数月平均200冊以上<br>③学校図書館の利用満足度A評価80%達成 | ①学校図書館を利用した生徒30%達成<br>②学校図書館の本の貸出冊数月平均150冊以上<br>③学校図書館の利用満足度A評価60%達成 | ①図書委員会が主催し、読書旬間やキャンペーンの取組の実施<br>②図書ボランティアを募り、図書館環境の整備の取組<br>③図書館司書による授業や各教科の授業での学校図書館利用の推進 | 学校図書館の活用について満足・概ね満足が<br>A：85%以上<br>B：60%以上<br>C：40%以上<br>D：30%未満 | 4 | 3 | 3 | ・より多くの生徒に図書室を利用してもらうために図書委員会の取組を活性化した。蔵書を増やすことが必要。<br>・図書館の利活用実態については知るすべがなくよくわからない。<br>・善悪の行為を徹底。勧善懲悪に基づき良いものは校内だけでなく地域に広めてほしい。 | ・図書館司書や図書ボランティアを活用した学校図書館の整備を更に進めていく。<br>・授業での活用を促し、生徒の利活用を推進する。<br>・委員会活動を通した取り組みや学級文庫の活用を更に積極的に進めていく。 |
| 9 | Ⅲ　教育環境の整備 | 特別支援教育の充実 | 特別支援教育の充実 | ①特別支援教育のA評価60%の達成<br>②特別支援学級の運営の向上と安定<br>③特別支援教室拠点校の運営の向上と安定 | ①特別支援教育のA評価40%の達成<br>②特別支援学級の運営の推進<br>③特別支援教室拠点校の運営の推進 | ①校内委員会の充実と通常級との連携強化<br>②特別支援学級の研究授業の実施<br>③特別支援教室の研究授業の実施 | 特別支援教育に満足・概ね満足が<br>A：85%以上<br>B：60%以上<br>C：40%以上<br>D：30%未満 | 3 | 3 | 3 | ・通常学級と特別支援学級やけやき教室が連携を図り運動会などの行事で協働して取り組んでいる。<br>・特別支援学級と通常級との交流・連携は大切だと思う。歴史ある拠点校として、「なるほど」と思われる実のある運営を目指してほしい。 | ・特別支援教育に関する教員への理解啓発を図るため、特別支援教育担当教員による還元研修を行う。<br>・特別支援学級や特別支援教室担当の教員による通常学級での特別支援に対する理解を深める授業の実施。<br>・各教室でのバリアフリー化をさらに推進していく。<br>・通常学級と特別支援学級との交流を活性化していく。 |
| 10 | オリンピック・パラリンピックの精神を生かした教育の充実 | 日本人としての自覚と豊かな国際感覚をもつ人材の育成 | 伝統と文化の理解の推進 | ①外部人材を活用した授業を継続して実施<br>②ESD/SDGs学習を通した国際感覚の醸成<br>③英語を使った「討論」や「やり取り」の定着 | ①外部人材をの発掘を進め授業実践<br>②ESD/SDGsの取組を通して知識理解の修得<br>③英語を使った「討論」や「やり取り」の推進 | ①外部団体による公演を通して伝統文化を学ぶ授業の実施<br>②学年学級を取り外したグループ編成で、SDGsの学習に取り組み発表の実施<br>③ALT活用やTGGの活用、スピーキングテストの実施 | 地域人材や外部講師を活用した教育に満足・概ね満足が<br>A：85%以上<br>B：60%以上<br>C：40%以上<br>D：30%未満 | 4 | 3 | 3 | ・同窓会と連携して卒業生による職業講話を実施し、社会人になる自覚と国際感覚を育成している。<br>・世界がわれらを呼びさます・あらゆる民族と手を繋げ・命の尊さを知るものよ・・私は仕事柄外国人との交流があるが、言葉もさることながら、やはり人間は「心」が大切であると痛感しています。相手の文化や歴史を知ることは思いやりにつながると思います。<br>・あらゆるところで「ありがとう」の精神を忘れずに活動して欲しい。感謝の気持ちを忘れずに。 | ・文化芸術に関する外部団体を招聘した公演を実施し、伝統文化や芸術に関する生徒の理解啓発を図る。<br>・TGGでの英語活用体験やALTを活用した授業を通して英語のコミュニケーション能力の更なる向上を図る。<br>・同窓会の協力を通して職業講話を継続する。 |